

防災ラジオドラマ

箕面自由学園高等学校防災グループ

「僕たちに今できること」

設定

箕面自由学園 幼稚園から高校までの校舎が一つの敷地内にある私立学校。

特別校舎 生徒が増え、教室が足りなくなったため急遽建てられた校舎。音楽室や調理室などの、特別教室がある。離れた場所に建てられたため、放送の回線工事が行き届いていない様子。

主な登場人物

卓也 何に対してもやる気をみせる。ただし勉強以外。

修太 比較的落ち着いた性格。卓也にふりまわされる。身長が高い

美穂 ギャル風な女子高校生。

麻衣 おどおどしてる女の子

担任（中野先生） 上記4人のクラス、3年2組の担任。担当教科は古典。生活指導も担当している。

【朝 HR】

担任「今日は4時間目に避難訓練がある。放送の指示に従ってグラウンドに集合するように。」

卓也「4時間目って音楽じゃね？特別校舎じゃん」

美穂「えーグラウンド一番遠いじゃん」

修太「うわ、最悪」

【四時間目 特別校舎 音楽】

美穂「もう授業終わりかけなんだけど、避難訓練じゃなかったの？」

卓也「先生！避難訓練は？」

音楽の先生「え？」時計を見る「ほんとだ、もう時間過ぎてる。」

ドアを開ける

音楽の先生「あ、もう他のクラス全員いない！避難訓練がはじまっています！いそいでグラウンドへ！」

修太「あはははまじかよー」

麻衣「ベルの音聞こえた？」

美穂「聞こえなかったよね」

卓也「これ、訓練じゃなくてマジだったら俺ら死んでんじゃね？」

修太「やべー（笑）」

音楽の先生「ほらほら、早くいきますよ」

生徒達「はい」「ういー」「だるー」

【グラウンド 他の生徒はもう全員並び終わっている】

担任「なにやっただおまえら！！」

卓也「俺たちのせいじゃねーよ！警報が聞こえなかったんだって！！」

担任「そんなわけあるか!!!」
卓也「はあ!?じゃあ確認しろよ!!!」
音楽の先生「そんなことよりほら、はやく並んで。時間ないんだから」
卓也「(舌打ち)」

【訓練あと】

卓也「マジでいみわかんねー」
修太「あれは学校側の責任だよな。ちゃんと確認しとけつての」
麻衣「でもさ、なんで聞こえなかったんだろ」
美穂「さあ?」

【翌日 3時間目 国語】

担任「——であるから、ここでの主人公の心情は——」
先生の携帯が鳴る。「緊急地震速報」
生徒ざわさわ「なに?地震?」「やばくね?」
担任「一応机の下に隠れて」
修太「ちよ、入んねーんだけど」
美穂「なにもそこまでしなくても大丈夫でしょー」
麻衣「あぶないよ!?!」
【地震発生】
美穂「きゃっ」
卓也「馬鹿か!!!机の下入れよ!!!」
【地震収まる】

放送「只今、震度5の地震が発生しました。余震がおこる可能性もありますので、生徒の皆さんは速やかに体育館に避難してください。先生方は生徒の点呼をお願いします。繰り返します。」

【教室へ体育館へ移動】

卓也「ほんとに地震なんか起こるんだつたら昨日の訓練ちゃんとしとけばよかったな」
修太「まー、大丈夫つしよー。校舎自体はくずれてないっぼいし」
美穂「ちよつと麻衣、大丈夫?」
麻衣「だいじようぶ、だいじようぶだよ、だいじようぶだよね?」
卓也「落ちて着けて。だいじようぶだから」
修太「家こわれてないといけどな。」
美穂「わかんないよねー。携帯教室だし・・・」
麻衣「お母さん、だいじようぶかな」
卓也「俺携帯もってるけど?」
美穂「なにそれずるい」
卓也「充電器ねーしいつまでもつかわかんねーけど」
修太「俺もケータイ持つてる」
美穂「なんで!?!」

【体育館】

先生「教頭先生、3年1組の生徒が全員いません!」

教頭 「教科は？」
先生 「音楽のほうです！」

BGM in

美穂 「ねえ、音楽って・・・」

卓也 「先生！それ、放送聞こえてねーよ！」

先生 「は？そんなはず・・・」

卓也 「あー、もう、俺呼んでくるー！」

修太 「卓也！？」

【卓也 特別教室の方へ走る】

教頭 「中野先生、あの子を追って下さい」

担任 「はい！」

教頭 「生徒の皆さんは静かにならんで下さい」

【特別校舎へ移動中】

担任 「おい！放送が聞こえないってどういうことだ！？」

卓也 「昨日の避難訓練、俺たちが遅れてきた理由！特別校舎はただでさえ放送が聞こえにくいのに、

防音の音楽室は非常ベルさえ聞こえないんだ！！普通の放送なんて聞こえるわけがない！！」

担任 「避難の指示さえきこえてねーのか！」

卓也 「昨日からそう言ってるじゃねーか！！」

【地震発生 震度2】

卓也 「余震？」

担任 「またでかい揺れが来たら校舎も危ないぞ」

卓也 「なんだこれ、防火扉！？」

担任 「まさか、中で火事が！？」

卓也 「（着信音）もしもし！」

【以下電話】

修太 「もしもし、卓也！？そっちどうなってるの！？生徒がだいぶパニックって・・・」

卓也 「修太、何人か先生連れて脚立持ってきて！！電話、麻衣に代わって！」

修太 「は？脚立？先生！！」 ↓麻衣に電話をわたし、先生に状況説明

麻衣 「もしもし！」

卓也 「麻衣、落ち着いてきて。今、特別校舎が火事になってるかもしれない。そのケータイで119

番して。んでそれを教頭に伝えて。」

麻衣 「わかった。教頭先生！！」

【電話終了】

【修太 先生と脚立を持って特別校舎 その途中で先生が火元を確認】

修太 「卓也！脚立！火元は理科実験室！」

卓也 「さんきゅー！」

担任 「何をするんだ？」

《脚立から音楽室の窓へ》

担任 「あぶないぞー！」

卓也 「こうでもしなきゃ中のやつらきづかぬーよ」

《窓をたたく》

卓也「おい！あける！！」

《窓が開く》

卓也「地下の理科実験室で火事だ。みんな、こつから降りれるか？」
BGM out

【体育館】

美穂「整列おわりました！いないのは一組の生徒だけです」

麻衣「消防車きました！」

教頭「急いで特別校舎に！」

【特別校舎 消防到着】

修太「これで全員？」

音楽の先生「そうです！」

消防隊員「中に残されてる人はいませんか？」

修太「はい、いません。」

卓也「ゆっくりでいいから、とりあえず体育館へ——」

【翌日 教室】

卓也「(数時間後、火は消火され、地震もおさまった。校舎が崩れることもなく燃えたのは理科実験室だけだった。だけど)」

麻衣「でも、こんなことがあるまで放送回線なおさないなんて、絶対おかしいよね」

修太「来週やっと工事だって」

美穂「まじで？てか、絶対だいぶ前からわかってたよね、放送聞こえないこと。」

卓也「大阪には地震なんて来ねーと思ってるからこうなるんだよ」

麻衣「でもこうなったのって、きつとうちの学校だけじゃないよね。」

美穂「そういえば友達とこの学校、教師が非常用の毛布とかの場所知らなかったらしいよ」

修太「大人って意外と役にたたねーな」

美穂「いっつも口ばっかりだよねー」

卓也「なんか、俺達でできることねーのかな・・・」

麻衣「防災グループとか・・・」

美穂「作っちゃう？防災、今はやりじゃん？(笑)」

卓也「具体的になにすんの？」

修太「ピラでも作ってまくか？」

麻衣「やってみようよ！」

美穂「ぐちぐち言ってもなにもかわらない、か。」

卓也「俺、みんなに言ってくる」

美穂「SNSで呼びかけてみるよー」

卓也「よし、やってみっか！」